

氏名： 荻原 千鶴 (OGIHARA Chizuru)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 教授
学位： 博士 (人文科学) / PH.D in Japanese literature
専門分野： 日本文学、特に日本上代文学 / Japanese ancient literature
E-mail： iwasaki.ogihara.chizuru@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

古事記 / 風土記 / 万葉集
Kojiki / Fudoki / Manyousyu

◆主要業績

総数 (1) 件

・口頭発表 「九州風土記の甲類と乙類をめぐって」風土記研究会大会 2008年9月 (論文印刷中『風土記研究』33号)

◆研究内容 / Research Pursuits

九州風土記の甲類・乙類の関係性や『日本書紀』との前後関係については、諸説が紛糾しており、確たる証拠の得られないまま、今日に至るまで定説がない。本研究は西海道風土記の仮名字母という全く新たな観点から甲類・乙類・『日本書紀』の関係について実証的に考究した。乙類の仮名字母が上代文献中特異である『日本書紀』のそれとの共通性が高いことは既に指摘されているが、本研究ではその様態について分析した結果、乙類仮名字母が『日本書紀』 α 群 β 群双方の仮名字母を使用していることから、乙類書記者は『日本書紀』全般を知悉しており、『日本書紀』以後の成立と考えられること、鼻音・鼻濁音の区別をしない α 群的用字の存在から、書記者は中国人である可能性を窺わせることを究明した。一方甲類については乙類の仮名字母使用の法則の残存を思わせる用例を見出し、乙類が甲類に先行する可能性が高いことを究明し、それらの考察を口頭によって発表し、論文にまとめた。論文は現在、印刷中である。

It was already found that Saikaido-Fudoki, or Kyushu-Fudoki is divided into two forms. These two forms are called Kou-ruì and Otsu-ruì, and we have been not sure how Kou-ruì, Otsu-ruì, and Nihonsyoki were mutually related. There are many kinds of consideration about that, and none of them have been confirmed.

I researched the Chinese characters used as “kana” in Kou-ruì and Otsu-ruì, and through this research, I found quite a new perspective about these problems. Chinese characters used as “kana” in Otsu-ruì are similar to those of Nihonsyoki, and they belong to both of α -group and β -group in Nihonsyoki. It means that Nihonsyoki was compiled earlier than Otsu-ruì, and that Otsu-ruì saw Nihonsyoki. I also found the example of a Chinese character that confuses nasal and voiced-nasal sounds, like those in α -group in Nihonsyoki. It means the author of Otsu-ruì was probably a Chinese.

Meanwhile about Kou-ruì, I found the example of a Chinese character used as “kana” in Kou-ruì that follows the usage of those in Otsu-ruì. I showed this means Kou-ruì was written later than Otsu-ruì, and was compiled referring to Otsu-ruì.

Through these considerations, I presented, in the Fudoki Congress, new opinions on the relations among Otsu-ruì and Kou-ruì and Nihonsyoki. These opinions are now being printed as a thesis.

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部では、日本古典文学史論(上代)・日本古典文学論特殊研究(上代)・日本上代文学特殊講義Ⅱ・日本古典文学論基礎演習Ⅰ・日本古典文学論演習(上代)・日本文学研究指導の授業を担当した。このうち文学史は、記紀・風土記を中心に文学の史的展開について講じた。特殊研究では万葉集各期の代表的な歌を取り上げ、時期を追っての変容や歌人の特性を考察する教育を行った。特殊講義では歴史社会的背景のもとに万葉歌を考察する教育を行った。基礎演習では日本文学を研究するにあたっての基礎的トレーニングを、演習では日本上代文学を研究するにあたってのトレーニングを指導した。日本文学研究指導では、学生の卒業論文作成のための指導を行った。

大学院博士前期課程では、日本上代文学表現史論演習・日本上代文学演習の授業を担当した。前者では播磨国風土記の写本にもとづいての調査研究の指導を行った。後者では、万葉集の山上憶良と大伴旅人の歌の分析考察についての指導を行った。

Under graduate courses: Basic seminars. History of ancient Japanese literature. Advanced seminar of ancient Japanese literature. Advanced lectures in ancient Japanese literature. Seminar of introduction to Japanese literature. Seminar on Manyousyu and Kojiki. Direction of research on ancient Japanese literature.

Graduate courses: Advanced seminar on history of ancient Japanese writings. Analysis about Harimanokuni-Fudoki. Reading of papers about songs of Yamanoue-no-Okura and Otomo-no-Tabito.

◆研究計画

西海道風土記の甲類・乙類について、仮名字母の様態の分析をさらに進める。それを通して甲類・乙類の関係性についての研究を深める。また実況記事の分析から甲類・乙類の時間意識を分析し、両者の関係性研究と『出雲国風土記』との比較研究へと進展させる。

◆メッセージ

『古事記』『風土記』『万葉集』など日本上代の文学は、1300年も前に書かれたものです。古代の人々の、現代とは大きく異なるものの考え方・感じ方がうかがえますが、それだけにかえて、現代の私たちの中に埋没してしまっているものを、はっと気づかせてくれたりするのは、古典を学び研究することは、現代を考えることにつながると、私は思っています。高校の授業ではあまりなじみがないかもしれませんが、上代の作品にも、ぜひ目を向けてみてください。新鮮な驚きと意外な共感をおぼえる新しい「自分」に、出会えると思いますよ。